

各位

会社名：東京瓦斯株式会社
代表者名：代表執行役社長 笹山 晋一
(コード：9531 東証プライム・名証プレミア)
問合せ先：法務部法務第1グループマネージャー 石井 渉
(TEL：(03) - 5400 - 7628)

カーボンニュートラルの実現を見据えたLNG火力発電事業に関する投資意思決定について

当社が進めてまいりましたLNG火力発電事業に関する検討について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 事実の概要および決定の理由

2022年6月15日付適時開示「千葉県袖ケ浦市におけるLNG火力発電所の検討継続について」のとおり、2019年9月より当社100%子会社である株式会社千葉袖ケ浦パワー（社長：鈴木淳一、以下「千葉袖ケ浦パワー」）が検討を進めていた千葉県袖ケ浦市の出光興産株式会社所有地におけるLNG火力発電所（以下「本事業」）に関し、当社は、事業化の目途が立ったことから、本日投資意思決定をいたしました。

当社は、グループ経営ビジョン「Compass2030」で「CO₂ネット・ゼロへの挑戦」を掲げており、その実現に向け、再エネ取扱量600万kWを目指しています。エネルギーの安定供給に加え、再エネ調整力としてのガス火力増強を通じて、ガス体と再エネの両輪で責任あるトランジションをリードし、お客さまとともに「脱炭素社会の実現」に貢献してまいります。

2. 今後の見通し

本事業では、将来的な水素の活用を見据え、水素混焼が可能な最新鋭の高効率ガスタービンコンバインドサイクル発電195万kWを導入し、2029年度より順次運転開始することを予定しています^{※1}。また、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、ガスタービン等を改造することで水素専焼も可能とする等、次世代化・高効率化および脱炭素型火力への置き換え双方の側面で重要な役割を果たしていくと考えています。

今後は、水素のみならず、e-methane^{※2}、CCS^{※3}等のあらゆる選択枝の活用を視野に取り組みを加速します。

なお、本事業は、千葉袖ケ浦パワーが実務を担っており、環境影響評価の手続等を通じて、引き続き地域のみならず関係行政機関からのご意見をふまえながら、取り組みを進めてまいります。

本投資意思決定による、当社の当期連結業績に与える影響は軽微です。なお、今後業績に与える影響について開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせします。

※1：水素混焼は水素供給網の確立が前提

※2：グリーン水素等の非化石エネルギー源を原料として製造された合成メタン

※3：CO₂の回収・貯蔵

3. 株式会社千葉袖ヶ浦パワーおよび発電所の計画の概要（2023年7月21日時点）

【会社概要】

会社名 : 株式会社千葉袖ヶ浦パワー
代表取締役社長 : 鈴木 淳一
本店所在地 : 千葉県袖ヶ浦市
事務所所在地 : 東京都墨田区江東橋四丁目 29 番 12 号
設立日 : 2019 年 9 月 2 日
資本金等 : 1 億円
出資比率 : 東京ガス株式会社 100%

【発電所の計画概要】

予定地 : 千葉県袖ヶ浦市中袖 3 番地 1
発電方式 : ガスタービンコンバインドサイクル方式
発電規模 : 195 万 kW（65 万 kW 級×3 軸）
燃料 : LNG（液化天然ガス）
運転開始予定 : 2029 年度より順次

以上

<参考：概略位置図>



<参考：完成予想図>

